



長岡の偉人というと、誰を思い浮かべますか？

山本五十六、河井継之助など、全国でも有名な偉人が多い町です。  
県外で生活していても、この二人を知っているという方は多いのではないのでしょうか。

特に幕末の戊辰戦争から明治にかけて、長岡のために活躍した河井継之助は有名です。  
また、米百俵の精神を打ち出した小林虎三郎も有名ですし、戊辰戦争後の疲弊した長岡の復興と近代化に寄与した実業家、  
三島億次郎の活躍も知る人ぞ知る活躍で、今の長岡に大きく影響する3名です。

この3人、実は近所の幼馴染だったってご存知でしたか？  
近所で同世代だった志をもった3人が、それぞれに違う役割で時間軸を少しずつ変えながら、  
今の長岡のために尽力したという、とても興味深い話ですね。

地元には、誰しも幼馴染のような友人がいるかと思います。  
その友人と、長岡のことを考えて行動すると思うと、ちょっとワクワクしませんか。  
昔の人が、「ほっとけない」と思って作り上げてくれた今の長岡。

先人がつくった長岡を大切にしたいと感じる人たちも多くいるのではないのでしょうか。

先人に学ぶのは歴史年表ではなく、その生き方と志。

少し歴史の勉強じみたコラムになってしまいましたが、そうやって長岡に誇りを持つ人も多いんじゃないかと思います。

ちょっと長岡のルーツをたどってみる時間をつくってもいいのでは？

と思い、書かせていただきました。

ちなみに、現在ブロードウェイで活躍する有名な脚本家のもと、長岡三傑の1人、激動の日本をいち早く察知し、

画期的な改革を成し遂げながら、武士道を守り抜いた男、河井継之助を主人公に、舞台が行われます。

主演の河井継之助役は俳優の市原隼人さん。

その名も、「最後のサムライ」

2015年3月4日ー15日に、東京の銀河劇場で公演される予定です。

もしご都合つく方は、長岡の誇りをのぞきに足を運んでみてください。